

## つくばね vol.28no.1

## ● 目次

- 1 脇道へ逸れる愉しみ
- 4 冊子体SCI, SSCIおよびA&HCIから  
オンラインWeb of Scienceへ
- 6 本学教官寄贈著書紹介
- 8 Ask Us としょかんミニガイド
- 10 平成13年度附属図書館統計
- 11 私の一冊
- 12 掲示板

## 脇道へ逸れる愉しみ ～ある教育書編集者のこと～

山内 芳文

中央図書館の一階には、本学の前身校が営々として蓄積してきた貴重な書物が所蔵されている。これらの蔵書は、かつての東京教育大学の時代には、図書館本館、学科図書室、さらに教官研究室などに分散していたものだが、現在ではここに集中して配架されている。なかでも、教育学関係のコレクションは、国内はもとより、世界でも屈指の規模と内容であることは広く認められている。私は、昭和63年4月に教育学系に來任して以来、ここを訪れることを無上の愉しみとしてきており、そしてことにこれまで見たこともない書物に出会ったときなどには言いようのない感激に浸ったものだ。図らずも附属図書館長に併任された昨年の4月以降も、多忙な学務の合間をぬって、この「宝の山」を訪ねることに何とも言えない至福のひとつときを見いだしてきた。

カール・ケールバッハという人物は、私の専門である教育学や教育史の世界でもごくごく一部でしか知られていない。そして、彼の名はどのような人名辞典にも載っていない。私にしても、関連の学界、しかもそのごく一部で共有されている以上の情報はこれまでもってはいなかった。つまり、

大学院に進学する今から35年以上もまえのころ、Monumenta Germaniae Paedagogica（『ドイツ教育学の記念物』とでも訳すしかない；以下、MGPと記す）という60巻を超える膨大な教育史叢書の企画者で編集者、そして浩瀚なヘルバルト全集の編集者としてのケールバッハを知って以来、ずっとその程度の知識でしかなかった。ところが、このほど秋の学会で久しぶりに発表でもしてみようなどと思い立ち、中央図書館の一階を訪ね、関連の資料にあたっていたところ、大学院でヘルバルトの講読をやっていることもあってのことだろうか、発表テーマとは当面無関係なケールバッハのことにふと想いが及び、すこしばかり脇道に逸れて、彼のことを調べてみようかという気になった。

ケールバッハ（Karl Kehrbach）は1846年8月22日、イエナやハレといった古い大学町を貫流するザーレ川の支流オルラ川の畔、チューリンゲンの森の小さな町ノイシュタットに生まれた。しかし、1874年の夏学期の始め（4月）に、ザクセンの大都会ライプチヒに出て、ヘルバルト派の教育学者チラーが主宰する大学の教育学ゼミナールに

入るまでの彼の経歴は、現在のところ十分に把握できていない。いずれにしても、現在の私の関心は、なぜMGPとヘルバルト全集という奇妙な取り合わせがケールバッハにおいて結実したのかということにあり、彼がライプチヒに現れるまでの経歴についての調査は別の機会に譲らざるをえない。ただ、それ以前のケールバッハが民衆学校(小学校)の教師であり、大学での研修の機会をこのチラーの施設に求めたことだけははっきりとしている。チラーのこのゼミナールにはすでに1871年からシュトリュンベルも参加し、それはあたかもヘルバルト派のセンターの様相を呈していた。チラーのゼミナールでのケールバッハの主要なテーマは、アーサー王の伝説、円卓の騎士たちの愛と勇気の物語の教材化の問題で、これについてはいくつかのレポートの記録が残されている。このライプチヒの教育学ゼミナールには実験学級が付設されていたから、ケールバッハはそこでの授業も担当したことだろう。さらに中世のドイツやフランスでの伝承の世界に関心を傾斜させていたことははっきりとしているが、しかしながら、それ以上の詳しいことについてはほとんどわかっていない。ケーニヒスベルクのヘルバルトに端を発する教育学ゼミナールの系譜においては古代や中世の伝説や伝承が主要な教材となっていたことからすると、それはごく当然の選択だったのかもしれない。そもそも、ヘルバルトの教育学にとっては、勇気、友情、さらには誠実といった永遠な有徳の世界を提供する古代ギリシアの神話、ことにホーマーの文学が格別の意味をもっていたからだ。ケールバッハにとってのひとつの転機は、道徳の宗教に対する関係に関する懸賞問題でカントをとりあげたことで、それが彼の関心を形而上学の問題へと移行させ、やがてその文献考証、そしてその編集の面白さへと繋げていった。レクラム文庫の学生版カント選集は、1877年に『純粹理性批判』の刊行で、ベンノ・エルドマンとの小競り合いが生じたものの、そのことによってか、彼のエディターとしての名はかえって広まったといってもよい。現在インターネットでの図書検索

では、ケールバッハは、まずこのカント選集、そして今日では復刻版で普及しているヘルバルト全集の編集者として確実にヒットする。

ヘルバルトがカントの実質的な後任として、ロシアに近い東プロイセンのケーニヒスベルクの大学へと赴いた翌年の1810年から経営し始めた「教授学練習所」(「教育学ゼミナール」への改組は1818年)、それを源流とするライプチヒのチラーのゼミナールに参加していたケールバッハがヘルバルトに関心をもったとしても、そのこと自体何ら不思議なことではない。ケールバッハがそれまでの定版だったハルテンシュタイン(1850年以降)やヴィルマン(1873年以降)といった教授たちの編集する選集への不満からヘルバルト全集の編纂に着手したのは早くとも1877年以降のことだが、ヘルバルト他界の翌年(1842年)に旧友シュミットによって書かれた「回想」を冒頭に収めた第1巻、そして有名な『一般教育学』を収める第2巻の刊行はその10年後の1887年、ライプチヒから遠く西へ離れたランゲンザルツァの書肆ヘルマン・バイヤーからだった。彼自身の手になる最終(第10)巻の刊行に漕ぎ着けたのは編纂に乗り出してから実に25年後の1902年のことで、それにはヘルバルトの1831年から1836年にかけての論攷、ことに有名な『教育学講義綱要』の1835年の初版と1841年ヘルバルト没年の版、それに『自然法と道徳の分析的解明』などが収載されている。そして、これまでに出版された9巻にはそれまでの諸版では見落とされてきたいくつもの重要な論攷が収められている。しかしながら、ヘルバルトがケーニヒスベルクで行った教育活動、つまり地方教育評議会、さらには大学の(とはいっても、その経費のほとんどはヘルバルト自身の負担だったのだが)教育学ゼミナールの活動についての文書、そして何よりも書簡の類の整理は、著作の最終(第11)巻の刊行(1906年)とともに協力者のフリーゲルらの手に委ねられなければならなかった。ケールバッハ自身は第1巻の編集者序言で、書評や書簡、さらには行政文書まで収録するとの計画を披瀝している。牧師だったフリーゲルは、

「ヘルバルトの最良の理解者」などと呼ばれている。彼によって編集が継続された書評や書簡、そして行政文書まで収録（8巻分）されたヘルバルト全集（全19巻）の完結は1912年だった。なお、ケールバッハは、教育学ゼミナールについては格別の関心をもっていたと思われ、すでに1893年秋ウィーンで開催された第42回ギュムナジウム教師会議でそれについての講演を行っている。これはただちに活字にされているので、そこからは今日でも教育ゼミナール経営者としてのヘルバルトへの彼の並々ならぬ関心が見て取れ、またその描写においては周到に資料的な吟味が加えられていることを窺い知ることができる。

一方、MGPの編纂については、ライプチヒの教育学ゼミナールのパトロンでもあったトマス・シューレ（大作曲家バッハで有名な聖トマス教会に付設されている当時のエリート校）の校長フリードリヒ・アウグスト・エックシュタイン、彼はこれも教育史の世界では有名なシュミットの『教育制度百科事典』（1858年以降）の第4巻でラテン語教授の変遷についての項目を、その小さな活字からしても本来ならばゆうに一冊以上の書物となる200ページにわたって担当しているが、そのエックシュタインが個人的に収集していた教育の膨大な史料を所蔵していることはよく知られていた。教育史の史料の系統的な収集の必要性は1871年11月16日ライプチヒの教員組合のコメニウス没後200年記念の集会でユリウス・ベーカーが提案して以来、ことにライプチヒでは教育史の中央資料館を設立しようという動きが活発となっていた。後にMGPに貴重な史料群を提供し、その紹介者ともなるコルデヴァイの1878年の東部ドイツのゲラでのギュムナジウム教師会議における熱心な史料整理の必要性についての提案は、そのベーカーに触発されてのことだったし、そこではエックシュタインの『教育制度百科事典』への掲載論が原史料の周到な吟味にもとづいて書かれている偉大な業績との讃辞も表明されていた。コルデヴァイの提案とエックシュタインとの出会いは1879年の西部ドイツのトリアでのギュムナジウム

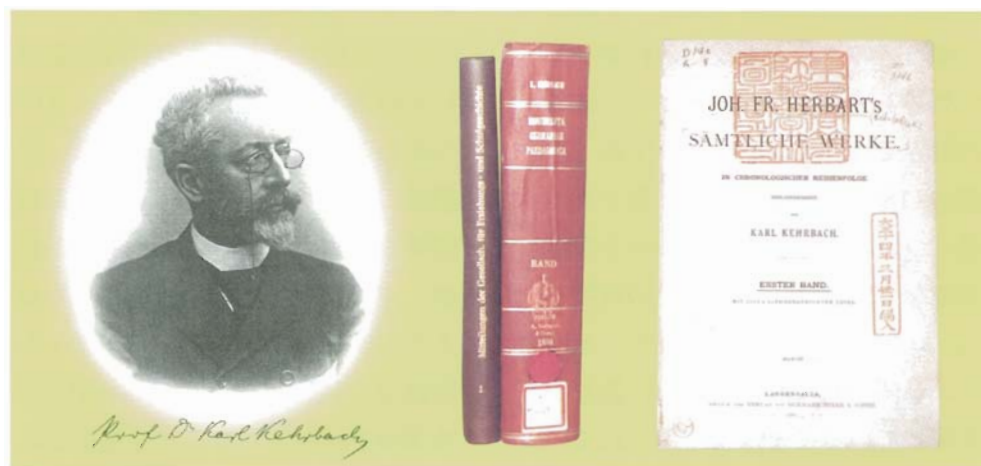
教師会議におけるエックシュタインの賛意となって表され、それはいくつかの曲折を経て、ケールバッハが戻る1884年の末までにはライプチヒにコメニウスの名を冠した教育資料館が設立されることになる。そのまえに、つまり少なくともその1884年、つまりこれより100年まえに汎愛学院が誕生したデッサウでのギュムナジウム教師会議までにケールバッハがMGPの構想をもってベルリンへ出向き、そこでホフマンという出版者と出会う援助の約束を取り付けていることがわかっている。エックシュタインは、自らの出席が最後となったその会議で、「Monumenta Germaniae Historicaの誇り高き響きを彷彿とさせるものだ」としてMGPの構想を賞賛している。Monumenta Germaniae Historicaは、ウィーン会議の直後、プロイセン改革の立て役者フォン・シュタイン男爵によって提唱され、その刊行が企画され、1826年にその第1巻が刊行されたドイツ中世史の史料集大成のことで、19世紀の末になってもその事業は継続していた。ケールバッハがこれ以降も相当の時間をかけてMGPの構想を練り直していたことは、すでに第1巻の刊行をみている1887年の秋スイスのチューリヒで開かれたギュムナジウム教師会議で「MGPの総括的な計画について」と題する講演を行っていることにも示されている。

1886年にコルデヴァイの編集によるその第1巻『1251年から1828年までのブラウンシュヴァイク市学校規程』がベルリンの書肆ホフマンから刊行されて以来、ケールバッハがベルリン近郊のシャルロッテンブルクで世を去る1905年10月21日までの間に計33巻が送り出され、最終的には大戦前夜の1938年までにMGP全体で62巻の刊行をみた。その全容を紹介するには残された紙幅が到底許さないが、例えば彼の生前にはパハトラーによるイエズス会の教育規程(ラチオ・ストゥディオルム)の羅独対訳(5, 9, 16巻)やハルトフェルダーによるメランヒトンについての今日期待できる唯一の体系的な研究(7巻)、さらには17世紀末からのドイツにおけるコメニウス教育学の影響を扱ったチェコ出身のクヴァチャラによる資料紹介と

その分析（26、32巻）などが刊行されているが、企画者で全体の編集者でもある彼が担当している巻は勿論ひとつもない。その没後には、高等学務委員会を舞台とする18世紀末のプロイセン中等教育政策の展開と大学入学試験の導入を扱ったシュヴァルツの論攷（46、48、50巻など）やフリードリヒ大王の教育政策をまとめたフォルマーの力作（56巻、彼には別にその父フリードリヒ・ヴィルヘルムI世の教育政策を扱った著書もある）なども刊行されている。最終の第62巻は、ティーレの「プロイセン教育制度史」だった。彼は、フンボルト（W.v.）の片腕であるジュフェルンの「教育法案」（1819年）の全文紹介者として知られている。MGP各巻の担当者の多くがギムナジウムの教師だったことは、このさい注目しておいてよ

い。MGPの刊行開始からしばらく経った1890年、プロイセンでは「学校会議」が開催され、皇帝ヴィルヘルムII世の愛国心高揚の演説が教育界を酔わせていたが、ケールバッハは、その1890年に「ドイツ教育史協会」を設立し、協会の「会報」（Mitteilungen）を発行している。その「会報」は、彼の他界から5年後の1910年からは教育史の「雑誌」（Zeitschrift）と改称して、その刊行はMGPと同じ1938年まで継続した。その両者には多くの興味ある論攷や記事が掲載されているが、1905年末刊行の「会報」の第15巻第4号には、この直前に59才で世を去ったその創刊者の肖像、そして追悼と回想の記事が掲載されている。

（やまうち・よしふみ 教育学系教授／附属図書館長）



## 冊子体SCI, SSCIおよびA&HCIからオンラインWeb of Scienceへ

白岩 善博

### Web of Science!

文部科学省の21世紀COEプログラムの申請書類の中で、「過去5年間の論文の引用率」の記載が求められるとの情報があり、本学でも各組織においてそのデータづくりのために、筑波大学電子図書館に取められているこのWeb of Scienceの恩恵に預かった方が多いのではないのでしょうか。そのため4月末にはアクセス制限がかかる程であったようである。

ちょうど1年前の6月に「Web of Scienceの無

料トライヤル」が実施され、それを経てその導入についての議論が研究図書委員会においてなされた。私見ではあるが、利用結果のアンケートからは思った程の反響は感じられなかった記憶がある。年々増大する学術雑誌価格の高騰やオンラインジャーナル化の流れの中で、二次資料への費用負担は各学系にとっては悩みの種であることは現在も変わりがない。今般の多くの利用をみると、この導入は正に時宜を得た先見の明のある判断であったと思われる。多くの困難を乗り越えてこの

導入を積極的に推進して下さった山内附属図書館長や図書館員の皆様に深く感謝すると共に、予算を手当てして導入を決定していただいた学長・大学当局の英断に敬意を表したい。

### 冊子体SCI, SSCIおよびA&HCIとWeb of Science

附属図書館のレファレンスデスクの奥に3段の木製の書棚がある。その一番手前の2列はScience Citation Index (SCI), Social Science Citation Index (SSCI) およびArts & Humanities Citation Index (A&HCI) という分厚い資料によって占められている(写真1)。この膨大なスペースを占有しても、15年程の資料にしかならない。内容はそれぞれ自然科学(基礎科学、医学、農学、工学、行動科学)、社会科学および芸術・人文科学に関する学術論文の掲載情報で、個人の発表論文のリスト、それら個々の論文についてそれを引用した論文のリスト、それらの論文中のキーワードについて整理し、各々のキーワードを使用した論文のリストが掲載されているものである。



(写真1) 冊子体SCIの書架

これらのIndexを用いて、自分が過去に発表した論文の一つ一つについて、各年毎にどの位の論文がそれを引用しているかを調べ、それを合計することによって合計の論文引用数を算出できるようになっている。最近、研究費の申請や業績評価の際に、この引用数や引用率のデータを求められるケースが増加しており、これらのデータベースの有効性やその価値が急激に増加している。また、キーワード検索から自分の研究に関連する論文を

過去に遡って検索することが容易にできる。

Web of Scienceとは、正にこれらSCI, SSCIおよびA&HCIをコンピューターデータベース化したものである。しかも、一冊の重さ数キログラムの本におさめられ、消し粒以下の小さな文字で書かれたものを、個々の研究室でキーボードをたたくだけでその情報を大きな字で見ることができるようにしたことのメリットは大きい。

SCI, SSCIおよびA&HCIのデータベースには、自分が発表した論文が総てデータとして採用される訳ではない。出版元であるISI社(Institute for Scientific Information, Philadelphia, USA)により選別された学術雑誌等に限られている。SCIの場合、その数は1975年では2,540誌(論文数5,535,968件)で、1999年で3,633誌(同17,735,121件)となっている。そのため、学会等で新しい学術雑誌を創刊した場合にはこの雑誌に掲載されることが権威付けのための最低の必要条件となっている。1999年版では、日本で出版されている学術雑誌としては86誌がSCIに掲載され、和名の雑誌も4誌含まれている。

### 冊子体SCIの利用

現在導入されているWeb of Scienceは1997年以降の5年間のデータからの引用に限られており、それ以前のデータを出発点とする検索については依然として冊子体を利用する必要がある。ここではSCIを例にとって、その利用により何が分かるか、そしてそれがいかに労力と時間を要する作業かの実例を示したい。勿論、筑波大学においては今さらこの本の利用法が分かってもさほどのメリットはないが、この利用を一度経験すればいかにWeb of Scienceが利用しやすいものであるかを実感できよう。ちなみに、本附属図書館における冊子体SCI, SSCIおよびA&HCIの所蔵はそれぞれ1955-99年、1966-99年および1975-99年となっている。

冊子体SCIは、1996年を例にとると一巻5センチメートル程度のもの全23巻よりなっている。それがCitation Index (1-12巻)、Source Index (13-

17巻) およびPermuterm® Subject Index (14-23巻) より構成されている。Citation Indexの場合、著者名(例えばSHIRAIWA Y)をインデックスとして引けば、1996年に出版された学術雑誌の中で引用された本人の過去の論文について、それを引用した著者名、雑誌名、巻、年号が記載されている。その数を合計すれば当該論文の1996年における引用数となる(写真2)。Source Indexの場合、著者名で引くとその著者が1996年に発表した論文のリストが筆頭著者名、雑誌名、巻、年号で記載されている。Permuterm® Subject Indexの場合、Keywords検索ができる。ある用語を引くと、その用語が使われている論文のリストが検索できる。さらに、冊子体SCIには、5年間のデータをまとめたSCI Five Year Cumulationがあり、附属図書館にある1980-84年のものは全64巻にわたっている。そのうち、Citation Indexが1-34巻、Source Indexが35-45巻、Permuterm® Subject Indexが46-64巻よりなっている。実際、Web of Scienceの利用に慣れてしまえば、この冊子体を利用するとその困難さは相当なものと感じる筈である。

Web of Scienceの利用価値と課題

ISI社がトライアルの際に強調したWeb of

Science利用のメリットの主なものは6項目に集約できよう。1) 引用の流れをみて研究の動向がわかる, 2) 論文の孫引きの繰り返しができるので、見逃していた論文が見つかる, 3) 論文のインパクトがわかる, 4) 最多被引用論文がわかる, 5) 異なる分野での引用が調べやすい, 6) キーワードからの論文検索が容易で1945年以降のデータが対象とされている。バックナンバーの充実を含め、さらなる資料の充実とより多くの方の利用がなされるよう切に望みたい。

(しらいわ・よしひろ 生物科学系教授)

|                         |             | VOL  | PG   | YR |
|-------------------------|-------------|------|------|----|
| MANN DH                 | J QUAT SCI  | 11   | 267  | 96 |
| 91 B CHEM SOC JPN       | 64          | 191  |      |    |
| MOSELEY JD              | TETRAHEDR-A | 7    | 3351 | 96 |
| 93 CROP SCI             | 33          | 804  |      |    |
| BONDADA BR              | CROP SCI    | 36   | 127  | 96 |
| 93 JPN J APPL PHYS PT 2 | 32          | L 20 |      |    |
| BHATTACH.E              | SEMIC SCI T | 11   | 531  | 96 |
| DANESH P                | J NON-CRYST | 204  | 265  | 96 |
| OTOBE M                 | JPN J A P 1 | 35   | 1325 | 96 |
| <b>SHIRAIWA Y</b>       |             |      |      |    |
| 83 PLANT CELL PHYSIOL   | 24          | 919  |      |    |
| BERMANFR.I              | J PHYCOLOGY | 31   | 906  | 95 |
| VILLAREJA               | PLANTA      | 199  | 481  | 96 |
| 83 PLANT CELL PHYSIOL   | 26          | 919  |      |    |
| MITCHELL C              | POLAR BIOL  | 16   | 95   | 96 |
| 85 PLANT CELL PHYSIOL   | 26          | 109  |      |    |
| NIEVA M                 | PLANT CEL P | 37   | 1    | 96 |
| 91 JPN J PHYCOL SORUI   | 39          | 355  |      |    |
| SATOH A                 | PLANT CEL P | 37   | 431  | 96 |
| 91 PLANT CELL PHYSIOL   | 32          | 311  |      |    |
| NIEVA M                 | PLANT CEL P | 37   | 1    | 96 |
| 93 J IMAGING SCI TECHN  | 37          | 385  |      |    |
| ARNEY JS                | J IMAG SC T | 39   | 502  | 95 |
| ..                      | ..          | 40   | 233  | 96 |
| 93 PLANT CELL PHYSIOL   | 34          | 649  |      |    |
| ISRAEL AA               | MAR ECOL-PR | 137  | 243  | 96 |
| SCARRATT MG             | MAR CHEM    | 54   | 263  | 96 |
| SEKINO K                | PLANT CEL P | 37   | 123  | 96 |
| <b>SHIRAKABE H</b>      |             |      |      |    |
| 56 JPN J CLIM RADIOL    | 1           | 25   |      |    |
| 67 STOMACH INTEST       | 2           | 1005 |      |    |
| 70 STOMACH INTEST       | 5           | 147  |      |    |
| OKADA M                 | ABDOM IMAG  | 21   | 133  | 96 |
| 88 ALIMENTARY TRACT RAD | 8721        |      |      |    |
| HALVORSE.RA             | SEMIN ONCOL | 23   | 325  | 96 |

(写真2) 冊子体Citation Indexの記載例



本学教官寄贈著書紹介

平成14年1月～3月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

(敬称略、寄贈者五十音順、所属は平成14年度のものです。〔 〕内は配架場所と配架番号です。)

赤木和夫 (物質工学系)

- ・白川英樹博士と導電性高分子 / 田中和義共編、化学同人、2001 [中央, 中央本学 578-Sh83]

伊藤益 (哲学・思想学系)

- ・高橋和巳作品論: 自己否定の思想, 北樹出版, 2002 [中央 910.268-Ta33]

入江康平 (体育科学系)

- ・日置流弓術傳書拾遺その1, いなほ書房, 2001 [体芸 789.5-Ky8-15]

金原礼子 (現代語・現代文化学系)

- ・フォーレの歌曲とフランス近代の詩人たち, 藤原書店, 2002 [中央 767-Ki46]

小俣幸嗣 (体育科学系)

- ・(財) 全日本柔道連名審判委員会資料集, 筑波大学体育科学系, 2001 [体芸 789.2-Ko61-1989 / 99]

**椎貝博美 (名誉教授)**

- ・アーカイブス利根川 / 宮村忠監修, 信山社サイエンテック, 2001 [中央 517.213-A29]

**進藤榮一 (社会科学系)**

- ・ユーラシア激動: 独立国家共同体のゆくえ / 下斗米伸夫共編, 社会評論社, 1992 [中央 312.38-Sh62]

**住田孝之 (臨床医学系)**

- ・EXPERT膠原病・リウマチ, 診断と治療社, 2002 [医学 493.14-Su65]

**砂川有里子 (文芸・言語学系)**

- ・日本語文型辞典: 教師と学習者のための / グループ・ジャマシイ編著, くろしお出版, 1998 [中央 参考 815-G95]
- ・中文版日本語句型辞典: 日本語文型辞典中国語訳簡体字版 / グループ・ジャマシイ編著, くろしお出版, 2001 [中央, 体芸, 医学 参考 823-G95]
- ・中文版日本語文型辞典: 日本語文型辞典中国語訳繁体字版 / グループ・ジャマシイ編著, くろしお出版, 2001 [中央 参考 823-G95]

**関根久雄 (社会科学系)**

- ・開発と向きあう人びと: ソロモン諸島における「開発」概念とリーダーシップ, 東洋出版, 2001 [中央 332.73-Se36]

**多田敦 (名誉教授)**

- ・農地工学 第3版 / 安富六郎, 山路永司共編, 文永堂出版, 1999 [中央 614-Y66]

**徳田克己 (心身障害学系)**

- ・トラフィック・バリアフリー, ホンダ安全運転普及本部, 2001 [中央 369.27-To66]

**徳田克己 (心身障害学系), 名川勝 (心身障害学系)**

- ・介護等体験の手引き: 介護・介助の基本技術と体験のポイントを完全網羅, 協同出版, 2002 (教職課程新書) [中央 373.7-To35]

**中田光雄 (現代語・現代文化学系)**

- ・政治と哲学: <ハイデガーとナチズム> 論争史の一決算 上巻, 岩波書店, 2002 [中央 134.9-H51-1]

**新津守 (臨床医学系)**

- ・膝MRI, 医学書院, 2002 [医学 494.77-N72]

**西川潔 (芸術学系)**

- ・サイン計画デザインマニュアル, 学芸出版社, 2002 [体芸 526.49-N83]

**根本承次郎 (電子・情報工学系)**

- ・レーザー工学, 培風館, 2001 [中央 549.95-N64]

**浜田博文 (教育学系)**

- ・若い教師たちのあゆみ: 教員の職能成長過程に関する基礎資料, [浜田博文], 2001 [中央 374.3-H22]

**藤川昌樹 (社会工学系)**

- ・近世武家集団と都市・建築, 中央公論美術出版, 2002 [中央 361.78-F58]

**堀池信夫 (哲学・思想学系)**

- ・中国哲学とヨーロッパの哲学者 下巻, 明治書院, 2002 [中央 122.02-H88-2]

**宮寺晃夫 (教育学系)**

- ・教育哲学講義「教え (ティーチング)」の分析: 教育理論史のコンテクストにおいて, 筑波大学教育哲学研究室, 2002 [中央, 体芸 371.1-Mi71]

**守屋正彦 (芸術学系)**

- ・すぐわかる日本の絵画, 東京美術, 2002 [体芸, 医学 721.02-Mo72]

**山内芳文 (教育学系)**

- ・「生きること」の教育思想史, 協同出版, 2002 ([21世紀の教育学] シリーズ) [中央 371.5-Y46]

**山本真理子 (心理学系)**

- ・社会的認知ハンドブック / 外山みどり [ほか] 共編, 北大路書房, 2001 [中央 361.4-Y31]





## ISI® Web of Scienceの使い方について

「ISI Web of Science」は、米国ISI社が提供する引用文献データベースで、論文の書誌事項およびその被引用状況について調べることが出来るものです。筑波大学では「Science Citation Index Expanded®」(自然科学), 「Social Sciences Citation Index®」(社会科学), 「Arts & Humanities Citation Index®」(人文科学)の全分野について、1997年から2002年までに発表された文献の検索が可能です。附属図書館及び学内LANに設置された端末からご利用になれますが、「同時ユーザー数：10」ですので、ご注意下さい。

ISI Web of KnowledgeはISI社提供のデータベースのためのプラットフォームです。ここがISI Web of Scienceへの入口になります。

検索方法としては「Full Search」と「Easy Search」がありますが、通常は「Full Search」を使うとよいでしょう。



図1：Full Search画面

「Full Search」では検索対象分野と収録年を設定し、次の検索方法を選択します。(図1)

①General Search：一般検索

②Cited Reference Search：

引用索引検索と呼ばれるもので入力文献情報についてその被引用回数や引用している論文情報が確認できる。

③Advanced Search：

検索履歴を見ながら新たな検索をしたり、ある

いは履歴を利用して複合検索をすることが可能である。但し、履歴と単語検索とを同一入力欄で使うことは出来ないので予め検索集合を作る必要がある。

④Combine Searches：

検索履歴にある集合を使っての検索式を実行出来る。

③④は両者とそれ以外の検索結果がそれぞれ履歴として反映されるので検索状況を確認しながらの絞り込みが容易に出来ます。また検索方法を切り替える際は画面上部のアイコンをクリックして下さい。

ここでは①および②について解説します。

## General Search (一般検索) について

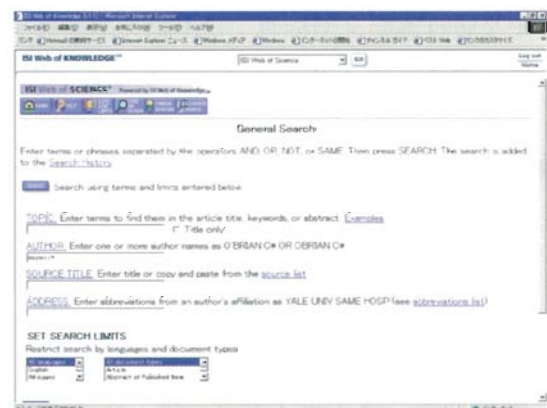


図2：General Search検索画面

「General Search」は、入力欄に各検索条件を入れて検索実行し(図2)、その検索結果のリストから任意の文献を選んでタイトル部分ををクリックすることにより詳細情報を表示させます。ここではトランケーションとして「\*＝語尾変化」「?＝1文字の語尾変化」があり、前方・中間一致としても使えます。また論理演算子は「and」「or」「not」が設定されているので、これらを使うことによって複合的な検索式を組み立てることが出来るのです。

詳細情報画面では、文献のタイトルや掲載誌名、ページ数等が記載されていますが、ISI Web of



Scienceの特徴として、画面上の特定箇所から様々な情報にリンクが張られています。

画面中程にある「Cited References:」では当該論文で使われた引用文献数が表示され、ここからその文献リストを参照出来ます。「Times Cited:」からは当該論文の被引用回数およびその文献リストと詳細についての情報が得られます。そして画面右上にある「Find Related Records」からは当該論文と同じ引用文献を引用している関連文献をたどることが出来、「Holdings」からは当館における論文掲載雑誌の所蔵状況が確認出来ます。

また、画面上に「VIEW FULL TEXT」ボタンのある場合はそこから本学で閲覧できるオンラインジャーナルの全文を表示させることも可能になっています。(図3)

以上の機能は「General Search」、「Cited Reference Search」どちらの詳細画面でも利用出来るものです。

このようにISI Web of Scienceには一つの論文からその引用・被引用文献のリンクを辿ることによって、ある特定分野の研究動向を探ることも可能な仕組みがあります。



図3：General Search検索結果詳細

### Cited Reference Search (引用文献検索) について

ここでは検索条件に合致する論文がリストとして表示されます。入力条件および方法は「General Search」と同様に行います。「General Search」にはあくまで利用可能範囲についてのみ結果が表示されるのに対して、

「Cited Reference Search」には検索対象論文が1997年から2002年までに1回以上引用されていれば、そこから年代を溯っての被引用状況までも表示するという特徴があります。

ここでの「1997～2002年」とは本学での現在の利用可能範囲ですが、これ以前のものであってもその後の被引用状況によっては被引用回数情報を獲得することが可能になっているのです。

検索結果リストでは、リストの先頭の「Hits」によってその論文がいままでに引用された回数が一目で分かるようになっており、詳細情報については青く表示されたリストについてのみ表示させることが可能になっています。(図4)

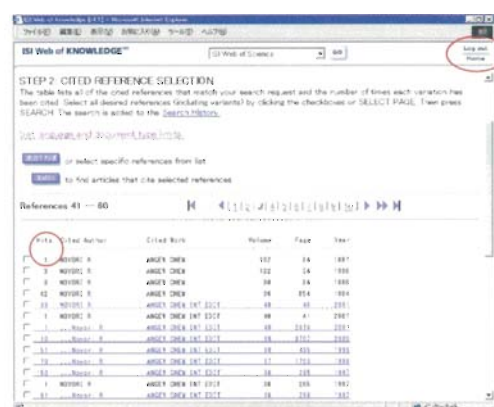


図4：Cited Reference Search検索結果

このようにして検索した結果は、リストのチェックボックスまたは詳細画面上で「Mark」することにより「Marked List」に保存され、出力形式を選んで自分の手元に置くことが出来ます。

検索終了時は画面右上にある「Log out」によりセッションを終了させましょう。画面を直接閉じてしまった場合、接続が切れたように見えても、実際はその後もしばらく接続が残っています。本学でのこのデータベースへの同時セッション数は10と限りがありますので終了方法についてご注意の上お使い下さい。

\*お問い合わせ先\*

検索方法：レファレンス係 (内線2784)

接続方法：電子情報係 (内線2470)



## 平成13年度附属図書館統計

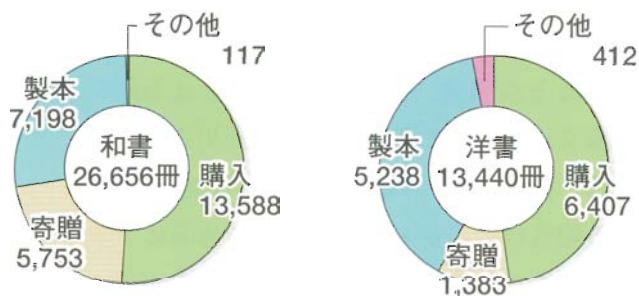
詳細な統計は、WWWページでも提供しておりますのでご覧ください。

URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/outline/statistics-2001.pdf>

**蔵書数 2,148,034冊**



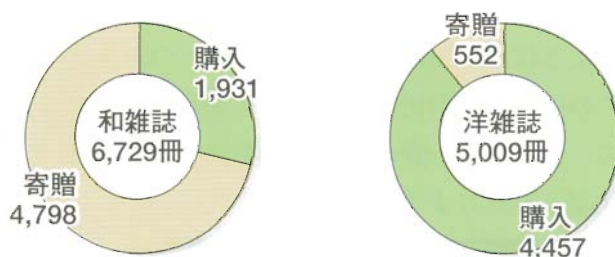
**年間受入冊数 40,096冊**



**所蔵雑誌タイトル数 18,665種**



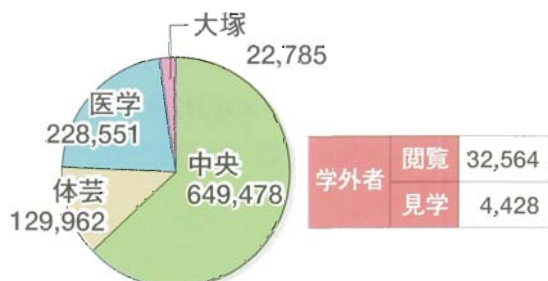
**継続雑誌タイトル数 11,738種**



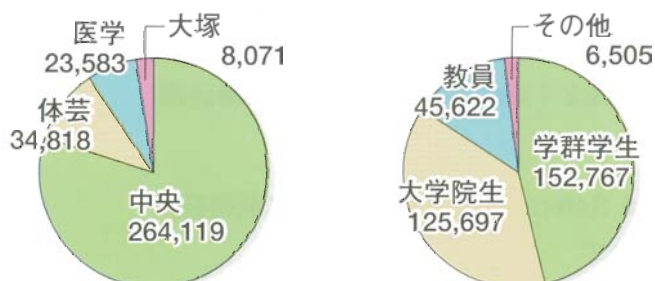
**オンラインジャーナルタイトル数 3,250種**

| 電子図書館<br>学内生産資料<br>登録数(件) | 研究紀要 | 学位論文 | 研究成果報告書 | 学事報告等 |
|---------------------------|------|------|---------|-------|
|                           | 52   | 950  | 304     | 175   |

**入館者総数 1,030,776人**



**貸出冊数 330,591冊**



**学内サービス対象者数 20,342人**

| 利用者タイプ | 教員    | 職員    | 学群学生  | 大学院生  |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 人数     | 2,968 | 1,823 | 9,718 | 5,833 |



## 私の一冊

堀池信夫

『中国哲学とヨーロッパの哲学者 上・下』

(明治書院 総1200頁)



本書は西洋の哲学者たちが中国の哲学・思想をどのように受容解釈してきたかを、13世紀から20世紀まで、通時的に研究したものである。要するに本書の内容はそれだけのものである。内容を詳しく知りたいという知的好奇心のある方は御自分で確かめられたい。

思想や哲学の研究は、このごろの学生諸君には羨も引っかけられないマイナーなものになっている。そして本書は、そうしたマイナーの中にあっても、なおマイナーな、いってみればマイナー中のマイナー、極度極端にマイナーな研究である。だからこれまで、こんな研究をやる人は世界中でまるでいなかった。世の中にそんな研究があったのか、みたいなものである。そんなマイナーなものに本学の（文科系の）学生諸君のように明るく前向きでメジャー志向の人々が振り向くことがあるのだろうか。まるで場違いである。

と、そんなことをいいつつも、今、私は本書の紹介文を書いている。やむを得ず書いているのだが、それはこのたび本書が図書館に配架されることになり、図書館の需めを断り切れなかったからである。しかし本書の性格は上乗りの通りであるから、これを紹介するという行為にはやはりかなり

の惨めさが伴う。加えて、この文章が学生諸君の目にとまっても、やはり本書の性格からして、明るく前向きの彼らからはたぶん何の反応もないだろう。そう思うとこの作文作業には、惨めさの上にむなしさが覆い被さる。

ただ、この配架がたんなる無駄に終わってしまうのは何だかもったいないように思う。だから内容など見なくともよい、万が一でよい、誰でもよいから、とにかく手にとってだけほしいと思う。それによって、配架の意味は十分にあったと思いたいのである。

(ほりいけ・のぶお 哲学・思想学系教授)

砂川有里子

日本語文型辞典

グループジャマシイ（くろしお出版）



外国人に日本語を教える人は、国語辞典のお世話になることが少なくない。しかし、国語辞典は元来日本人向けに作られたものなので、外国語として日本語を調べるのには限界がある。試しに「せつかく」という語を引いてみよう。辞典には「そのことのためにわざわざすること。ほねをおること」などの記述がある。これをそのまま外国

人に説明すると、「きのうはせっかく成田まで行きました。成田で友達に会いました」のような作文となって返ってくる。確かに説明したとおりの文ではある。

日本語を教えるのに国語辞典では間に合わない、参考書にも書いていない、それなら自分で作ってしまえ、と考えたのがこの発端である。そこで、ベテランの日本語教師7名に呼びかけ、知恵を出し合った。そして、これまでの辞典では調べようがない表現、「・・・が・・・なら・・・も・・・だ（親が親なら子も子だ）」「・・・でなくては・・・できない（トップでなくては満足できない）」などを積極的に取り込もう、用例はそれが用いられる状況がよく分かるものを考えようといったアイデアが出されていった。見出し語を決めるため、日本語教科書・新聞・シナリオなどを調査するところからはじめたので、思いの外時間がかかったが、編集会議のたびに新しい発見が

あって、楽しみながらの作業だった。

外国語として日本語を学ぶ人々にも使えるよう配慮したつもりだが、もとはといえば教師のために作ったものだから、学習者に役立つかどうか心配だった。しかし、刊行後、国内外の学習者から多くの励ましの言葉を頂戴した。しばらくして、北京外国語大学の徐一平教授が中国語版を作ろうと声を掛けてくださり、対訳版の『日本語句型辞典（簡体字）』と『日本語句型辞典（繁体字）』が刊行された。

この辞典でもう一つ思い出深いのは、日本語・日本文化学類卒業後くろしお出版に勤めたばかりの福西敏宏君が企画から刊行まで編集担当を務めてくれたことである。刊行間際は昼夜を問わずメールが飛び交い、休日を返上しての仕事だった。このときのお祭り騒ぎも今となっては懐かしい。

(すなかわ・ゆりこ 文芸・言語学系教授)



## 掲示板

拡大読書器を増設しました。

中央・体芸・医学の各図書館に、拡大読書器を設置しました。

これまでは中央図書館に1台のみでしたが、現在、中央図書館に3台、体芸図書館に1台、医学

図書館に2台設置されています。

「つくばね」読者の皆様が、実際に拡大読書器をお使いになることは少ないと思われませんが、周りに目の不自由な方がいらっしゃいましたら、ぜひ教えてさしあげてください。



## 編集室だより

本年度の館報「つくばね」編集委員は、次の8名です。

主査：情報システム課長 松田實

副主査：情報システム課課長補佐 平岡博

情報管理課：野口詠，福井啓介

情報サービス課：徳田聖子，斎藤未夏

後宮優子

情報システム課：真中孝行